

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で暮らすことの意味を理念に入れ、理念を目につく所に掲げ、意識しやすいようにしている。毎日の朝礼、月1回の全体会議で実践について、話し合いを行っている。	法人には七つの理念があり、ホーム独自の理念も掲げ、更に掘り下げ、利用者や来訪者に分かり易い言葉として示している。「ありのままに」と大書した手作りの額縁が居間に掲げられ、普段の家庭と同じ暮らしが営まれている。職員も仕事に入ると自然に笑顔になり、利用者と関わることで心が落ち着き癒されているという。利用者の穏やかな表情から職員が理念に沿った支援を誠実に行なっていることを感じ取れた。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、防災訓練、行事に積極的に参加したり、地区の子供会や小学校と定期的に交流会を行っている。地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	地元の区に加入し、一軒分として区費も納め、地元神社の寄付にも応じている。回覧板も廻り、配布物も頂き、行事へのお誘いも普通にある。ホーム発行の新聞も地区に回覧している。交流している近くの小学校3年生が利用者と一緒に楽しむようにと毎回企画を変えて年4回来訪してる。紙芝居や読み聞かせなどのボランティアの来訪、地元の各種団体などの見学もある。近所や家族からの野菜のお裾分けもある。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症学習会、見学会に場所を提供し、職員説明、質疑応答を行っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、ホームの実情を理解していただき、活発に出され意見で学ぶことが多く、協力体制を求めることが出来ている。	奇数月毎に開催している。家族、区長、民生委員、市担当課職員などが参加し、時には消防署員、警察署員などが参加することもある。議事録も整備されており、地域の人々が親身になってホームのことを考えてくれていることが紙面からも読み取れる。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、ホームの取り組み等報告できている。市町村の立場から意見も聞かせていただいている。市主催の会議に参加し情報を得ている。	市主催の事業者会議に出席し情報交換している。介護認定更新の際には申請の代行をしたり、ホームで本人と家族も同席しホーム職員から認定調査員に現況等を伝えている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関の施錠は行っているが他身体拘束は行っていない。身体拘束についての理解も出来ている。	心身の抑制や行動制限については全くない。拘束をしないケアについてのマニュアルや事例等で職員も学び拘束などについて正しく理解している。夕刻になると家に帰りたいという利用者もいるが、行動を抑えるのではなく十分話をし納得していただいている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会に参加し、職員ミーティングで報告し、意識の共有を図っている。事業所では虐待行為は見られない。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研職員ミーティングで学習し共有を図っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で十分な時間をとり、説明し疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける大勢を作り、不安のないように配慮している。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方々と直接話ができる場を設けている。意見箱を作ったり、面会時などに職員にも意見をいただきやすい関係作りを行い、実際いただいた意見は反映できるような体制ができています。	不平・不満も含め利用者の殆どの方が自分の意見や要望を伝えることができ、自分の意思を言葉で表すことのできない方も表情から推し量ることができる。家族の来訪頻度も高く、遠方からの方でも月1回はあり、要望等をお聞きしている。家族会が年1回、5月第一土曜日に開かれており、大勢の家族が参加し、更に第三者委員も参加することで忌憚のない意見を聞くことができています。ホームだよりのほか、2ヶ月に1回各利用者ごとの「なでしこの生活」を家族宛に送付し意思疎通を図っている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングでは活発な話し合いがなされ、運営に生かされている。代表者は、事業所訪問時職員と面談し意見を聴いている。	全体会議も硬くなく、職員が気になっていることであればどんなに小さなことでも話し合っている。会議の内容も業務に関すること、介護計画についてなど幅広く意思統一の場となっている。管理者との面談も年3回以上実施されており、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行っている。労働条件の改善は行われ、都度職員への伝達もされている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は実施され、参加機会も多く与えられている。研修は充実したものとなり、今後のケアにつながると考える。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の機会は多くあり、いい刺激になっている。法人外の同業者との交流の機会を増やしたい。		

己自部外	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを多くとり、話をしたり、本人をよりまく環境にも目を向け、ともに解決すべき努力し、不安をなくし安心していただくように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得で安心していただけるよう必要に応じて何回か話し合いの機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で何を必要としているかを、知り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を利用者主体とし、相談しながら活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を定期的を送付し、共有する中で、協力しともに支えることを常にお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出においてなじみの場所や自宅訪問を行ったり、友人・知人が訪問しやすい環境を作っている。電話での交流も行っている。面会時には、一緒に写真を撮り思いで作りを行っている。	隣人や老人クラブの仲間、仲人をしてくれた方など、利用者が長年お付き合いしてきた方との関係を継続している。遠方の親戚からの年賀状にお返しの電話をする支援もしている。年末・年始やお盆に親戚の方が迎えに来て、日帰りで一時帰宅する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い認め合ったり、助け合ったりと、利用者同士の関係作りは出来つつあり励みになっている。孤立気味なときは職員が入り、安心できるように努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による解除のみである。関係を保てるように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の意向等把握している。また普段の生活の様子や会話から、また必要に応じて家族も交え、本人の希望、思いを汲み取り職員で情報を共有し、ケアにつなげている。	外出や食事、入浴など、日常生活の中で何をしたいのか、お茶の時間や作業の合間に個々の思いをさりげなくお聞きしている。時には気が合う、合わないなど人間関係での悩みを相談する利用者もいる。職員は聞き取ったことや気づいたことなどを記録に留め、全体会議などで情報の共有化を図り、利用者が気持ちよく生活できるように支援している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活暦等の把握を行い、家族からも様々な情報を得られるよう関係を作っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を充実させ、一人ひとりの状態を把握し、職員の連携で、満足した生活が継続できるように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者・ケアマネ中心に作成し、職員会議で皆の意見を求め反映している。本人や家族に定期的に意向を聞き、プランに反映させている。	利用者の担当制をとっており、職員は一名以上の利用者を受け持っている。実施記録を記入をすることもあり、全利用者の計画を把握し、その検討の場にも参加している。毎月モニタリングを実施し、状態に変化があれば介護計画を変更している。家族の意向も聞き、基本的には6ヶ月に一度見直しを掛けている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、昼夜に分け、日々の様子やプランの実施状況についてかかれ、職員間の情報の共有、ケアの実践につなげ、ニーズは何か常に把握できるようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録やミーティングにおいてニーズの変化の把握を行い、対策やサービスの変更も都度柔軟に行えている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内だけの生活にならないように、スーパー、美容院など地域資源の活用を行っている。また散歩を通じ近隣の方とふれあいをいもてるようにしている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族、本人の希望で行っている。協力医院による月1回の訪問診療があり、緊急時は電話にて指示を得ることができ、連携がとれている。	定期受診や協力医院の専門外の診療科目についての付き添いは基本的に家族にお願いしている。遠方の家族もよほどのことがない限り月に1回は来訪し定期受診に付き添い、職員との関係を密にしている。家族にお願いする場合もホームで連絡票を作成し持参していただいている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師はいないが、法人の看護師に相談できている。協力医院の看護師とも連携できる体制が出来ている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のケースが生じた場合は、職員が病院へ行き、看護師や医師と情報交換が出来ている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について、家族の意向を聞いているが、マニュアル化していない。	利用者の平均年齢も88歳、90歳代も三分の一と高齢化に伴い身体機能の低下も見られている。ホームとしては医療機関や施設との連携強化に努めており、過去には施設に移られた方や終末期をホームで過ごし医療機関に移り最期を迎えられたケースはある。そうした中で、職員はホームでの生活を最期まで続けて欲しいと願っており、住み替えないように心身の機能維持に力を注いでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習には全員参加できている。繰り返し訓練を行っていくことで、身に付けていきたい。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の訓練に参加したり、事業所の訓練に、消防署や地域の方に参加してもらい、協力体制が必要なことは確認できている。2か月に1回の事業所訓練では、各種想定の中で行っている。	消防署員や区長などが参加する総合防災訓練は年に1回であるが事業所独自に想定した訓練を隔月ごとに実施し、AEDなどの講習会も行なっている。車椅子の利用者も参加している。地域の防災訓練にも職員が参加しており、防災無線や火災報知器、自動通報システムなども備え付けられている。地域の支えあいマップにもホームが載っている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は、常に意識し、言葉掛けなど日々の関わりを振り返り、尊厳を大切にしよう心がけている。利用者の表情から、些細なことでも気付くことができるように心がけている。	ホームの運営規定にも「安心と尊厳のある生活を」支援することが「事業の目的」に掲げられており、更に「運営の基本」の条文にも「利用者の意思の尊重」に努めることが書かれ職員も実践している。かつてホームでの暮らしの中で迷うことがあり、他の利用者からも信頼を頂いていた男性の利用者を尊重し、決定していただいたこともある。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺うことを多く持つことを心がけている。が言葉に表せない方については誘導してしまうことがある。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等はなく、その時々で利用者のペースで柔軟に生活していただけるようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカーフ、外出着等その人らしく楽しんでいただけるように支援できている。散髪についても、希望の髪形に出来ている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材選び、調理、片付けと一連を通して一緒にいき楽しんでいただいている。楽しく食事できるように雰囲気作りを行っている。	一口大に調理することはあるが殆どの利用者は常食で自ら食べることができる。食が細い方には盛り付けを工夫し食欲につながるようにしている。献立もその日その日で決めており、毎日交替で利用者と一緒に買い物に出掛け食材を選んでいる。ホームの畑もあり夏野菜やジャガイモを作っている。外食にも年2~3回出掛け、新そばなどを味わっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握は出来ており、必要に応じて記録に残し、体調管理につながっている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、必要に応じて介助、声かけで行っている。定期的な義歯消毒を行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンをつかみ、トイレでの排泄につなげている。失敗しても、本人が傷つかないように、周囲に気づかれないようなる対応を行っている。	布パンツ使用の方はわずかでリハビリパンツとパット対応の方が多い。尿意を言葉で表せない方もいるが手引き誘導などでトイレへのご案内している。昼夜を問わずトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。必要に応じ腹部のマッサージ、薬の使用で便秘予防に努めている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はおおよそ決めてるが、本人の希望により変更できる状態である。入浴時間は体調を見ながら本人の希望に沿っている。1日ほぼ2名ほどの入浴で、ゆっくり入っていただけしている。	風呂場は洗い場も広く、介助するスペースも十分とられている。足が自由にならない方がいたり身体的な機能の維持も難しくなってきたり、浴槽への出入りに職員2人で介助するなど、一人ひとりに合わせ支援をしている。菖蒲湯やゆず湯などの季節を感じるお風呂も楽しんでいる。近くの温泉地での足湯などにも出掛けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、寝たいときに寝ていただいている。休みたいときは寝ていただいているが、メリハリのある生活が送れるように配慮している。季節に合わせた寝具で清潔にも考慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬簿により個々の服薬について理解できている。投薬については安全が図れる手順が考えられている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に役割を持っていただき、生きがいにつながる様に支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報などから楽しみや満足感が得られるプランを立て実行している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスツアー、墓参り、喫茶店、美術展見学、自宅等本人の希望に沿った支援を行い、楽しんでいただいている。家族も一緒に参加できるような支援も行っている。	日常的には気分転換も兼ねシルバーカーを利用したり手引き歩行でホーム周辺を散歩している。初詣、アジサイや蓮の花の花見、紅葉狩りなどにも出掛けている。法人本部での文化祭や地区のふれあいマーケットにも出品し、見学に出かけている。地区社協主催のバスツアーに毎年一人ずつ交替で参加し、職員が付き添っている。個別での支援も増えており、家族とともに外出する方もいる。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持ち買い物できるようにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は希望により行えている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家という事業所の特徴を生かし、落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。常に清潔であるように努め、季節の花や、飾り物を置き、生活感を感じ、居心地のいい空間を作る努力をしている。	玄関のくぐり戸を入ると古い筆筒と磨きぬかれた木の廊下が目に入る。食卓テーブルとソファが真ん中に置かれた居間兼食堂には天窓が高く設けられ早春の自然の光が差し込んでおり、利用者は一日の大半をここで過ごすという。利用者が生まれた時に贈られたという90年ほど前の大きめな内裏籠も飾られていた。トイレ、浴室なども築200年の古民家の部屋の配置に合わせて改修されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は1人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことは出来、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒や写真、飾り物など置かれ、家族と本人で相談し作られ、居心地良い工夫がされている。	古民家の内部の配置に合わせて居室づくりがされており、窓のサッシの色にも配慮がされている他、落ち着いた雰囲気になっている。ベッドでの生活であるが、ダンスや衣装ラックが置かれ、それぞれの生活のにおいが感じられる。どの居室にも大きめのコルクボードが壁際に吊り下げられ、外出時のスナップ写真や家族の写真、お孫さんの描いた絵と手紙なども一緒に張られていた。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置等考えてある。安全については、手すりや足元の明りを付けるなど、都度話し合い、確認している。		